

宮岡緑さんからのメッセージ



今回のプログラムは、ベートーヴェンと武満という西欧と日本の全く異なる土壌で生まれ、さらに時代も異なる音楽であります。私は以前からベートーヴェンの音楽に強く惹かれ、特にこの作品 111 は生涯かけて研究し続けたい作品であります。また、武満の作品の中でも比較的馴染みやすいこのリタニは、武満独特の音楽が色濃く表現されています。この掛け離れたように思える 2 曲ですが、苦悩や救済の念、さらには死という言葉が過るベートーヴェンと、武満の友人であるマイケル・ヴァイナーの追悼のために書かれたこの曲は、人間の真髄、精神性という点でその国や時代の違いさえも感じない強い結びつきがあり、私は特別な

ものを感じます。大学 3 年のときに、初めての海外で、ヨーロッパにおいて最大のザルツブルクのモーツアルテウム夏期国際アカデミーに参加した事をきっかけに、その後も霧島国際音楽祭のマスタークラスなど様々な講習会に参加し、世界的に著名な教授のレッスンを受講する機会も多く頂きました。そこで何よりも感じたことは、単なる技術の正確さだけでなく自身の音楽をいかに明確に伝えるかということでした。西欧人には日本人にはない表現力の強さがあり、それは特にロシア人に顕著でした。恐らく、それは民族的な要素や風土、習慣に由来するのではないのでしょうか。私は、西洋で生まれたクラシック音楽を日本人が行う難しさをしばしば感じることもあり、時にはハンディさえも感じます。過去の偉大な作曲家、例えばバッハやモーツァルト、ベートーヴェン、ショパンが創った作品が、何百年も経った今日でも愛され続けていますが、こうした素晴らしい音楽（楽器も含めて）は他のどの地でもなく、ヨーロッパの素晴らしい大地や自然の中でこそ生まれたのではないのでしょうか。

少なくとも私は、偉大な作曲家が生まれ育った環境は、音楽に影響していると思います。ヨーロッパの地で生まれ育った人たちが自然と表現できるものも、そうした環境で育っていない私たちは、その音楽を演奏する際に困難を感じることもあります。

しかし、作曲家や作品が創作された背景などを深く研究する事で、その作品に近づくことが出来ます。その点で、邦人作品は私たち日本人のもつ魅力を引き出せる音楽です。今回の私のプログラムは、西欧と日本というまさにその影響の違いを感じて頂けると思います。この伝統あるクロイツァー賞を頂けたことは、これまででご指導下さいました先生方、そして私を支えて下さる多くの方々のお蔭と心より感謝しております。終わりのない音楽の世界は厳しくもありますが、私は大変幸せなことだと感じています。何よりも可能性が無限だということです。大学院修了はひとつの区切りではありますが、これを新たな出発点として、そして私が最も大切にしていることである「音の質」を研究し続け、これからも発展し続けられるよう可能性を求めて行きたいと思います。最後になりましたが、この演奏会で一人でも多くの方々とともに音楽を共有できますことを心から願っております。

2012年5月 東京にて 宮岡 緑



ザルツブルクの講習会に参加した際のお写真

宮岡 緑 (みやおか みどり) … 国立音楽大学

国立音楽大学附属高等学校を経て、同大学を首席卒業、併せて武岡賞受賞、鍵盤楽器ソリストコース修了。同大学卒業演奏会、第80回読売新人演奏会出演。2012年同大学大学院音楽研究科修士課程修了、併せてクロイツァー賞、最優秀賞受賞。大学院新人演奏会出演。第77回、80回同大学ソロ・室内楽定期演奏会出演。在学中、国立音楽大学国内外研修奨学生としてモーツァルテウム夏期国際アカデミーに参加、教授推薦アカデミーコンサート出演。第30回、32回霧島国際音楽祭にてダン・タイ・ソン氏のマスタークラス修了、教授推薦コンサート出演、霧島国際音楽祭奨学生。これまでにK.ヘルヴィヒ、N.トゥルーリ、M.ベロフの各氏のレッスンを受講。2011年、12年東京にてリサイタル開催。ピアノを種田靖子、三浦明子、遠藤志葉、堀田万友美、近藤伸子の各氏に師事。